

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400227
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	グループホーム 夏みかん
所在地	愛媛県八幡浜市八代45番地
自己評価作成日	平成21年10月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日常的な作業を毎日続けている。ホームの狭さが、入居者さんにとっても、職員にとっても利点になっている面がある。入居者さんの日々の状態に合わせながらも、残存能力をいかせるよう援助している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

毎月、遠くに住まわれているお孫さんから写真入りのはがきが届き、職員は、利用者をご自分でお返事を書くことをサポートされている。又、ご家族に暑中見舞いを出され、ご家族がとても喜ばれた。食事等には利用者同士で助け合う場面が見受けられ、居室には他の利用者を書いて下さった誕生日のお祝いの言葉が飾られていた。
管理者は、職員に「利用者への言葉遣いに気を付ける」よう話しておられる。調査訪問時、職員は、利用者のペースを大切に支援されており、利用者同士でコミュニケーションがむつまじいような場面に、さりげなく橋渡しをされている様子がうかがえた。日中、居室のポータブルトイレを使用しない時間には布を掛けておられ、又、ご本人が使用するパット等の介護用品も外部から見えないよう収納されていた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 夏みかん

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

二宮 美菜子

評価完了日

H21年 10月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「認知症であっても地域の中で当たり前暮らしながら人間の尊厳を大切に生きていく」ことを理念として、ホーム内2箇所に大きく提示し、その人らしく生活できるよう、日々意識するようにしている。	
			(外部評価) 事業所の理念に沿って管理者は、職員に「個人の尊厳を大切にかかわること」を日々の中で語っておられる。又、中学生が学習の一環で訪問した際、「ここは、利用者の第2のお家です」等と中学生に分かりやすく説明をされた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 夜市・地域の避難訓練・季節のお祭りなど、地域の行事にはできるだけ参加するようにしており、散歩や買い物などの時には挨拶を欠かさないようにしている。散髪もなじみの店のある方は、その店を利用できるよう援助している。	
			(外部評価) 散歩の際、敷地内にある同法人の運営する託児所の子ども達が遊んでいる様子を見られたり、隣接の共同作業所の方達と一緒に餅つきもされた。近くの魚屋や商店から事業所で使う食材を配達してもらっていたり、近所のスーパーに利用者と買い物に行ったりされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議を通して、実際のケアや日常の流れ、ホームの現状を報告している。また、地域の学生の福祉体験学習も受け入れもっている。しかし、まだ積極的に貢献しているとは言えない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>2ヶ月に1回開催し、会議や行事の開催、地域行事へ の参加をしている。会議においてはテーマを決め、意 見交換を行っている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>市が開催するGH連絡会には必ず参加し、情報交換を 行っている。毎月、さわやか相談員が2名訪問され、 積極的な意見をもらっている。施設長の交代が続き、 不十分なところもあるが、これから積極的に頑張りたい。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>原則、身体拘束は禁止しているし、行われていない。 ただし、入居者の身の安全を守るために必要になった 場合の書類などは用意しており、その旨は入居契約時 に説明している。しかし、身体拘束について正しい知 識を持っているのかどうか、あやふやなところもあ り、学べる機会があれば良い。</p>	
			(外部評価)	
			<p>日中、玄関は鍵をかけず、自由に出入りできるよ うにされている。利用者は、玄関先でプランターに咲い ている菊のお花を觀賞されたり、居室の吐き出し窓から 外を眺めたりされている。居間には天窗はあるが、外 が見えるような窓がないこともあり、各居室の入口に のれんを掛けて配慮した上で開け、外からの光や風を 採り入れ、開放的な空間作りに努めておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 現在、付帯施設勉強会の中で高齢者虐待についての項目を設けているが、回数が限られているため全員が参加するにいたっていない。しかし、今までも虐待防止に関する資料を職員に配布し、認識はできている。入居者の状態の変化に気をつけ日々観察を行い、また言葉による虐待・精神的負担を与えないようにみんなで気をつけている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 支援事業や後見人制度について勉強している職員は少なく、ホーム内での勉強会の開催が必要。しかし、以前成年後見人制度の申請を行う家族からの申し出に、医療機関との連携を取り、支援することはできた。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約時は、契約書や書類に沿ってわかりやすいように説明するよう心がけている。加算体制の変更時にも毎回説明文書を送付し、同意書を頂いている。また、職員にもできるだけ改定時などの説明を行うようにし、施設長不在の場合でも御家族への対応ができるよう、さらに努力したい。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 普段の面会時にも近況を報告し、その都度ご家族の意見を聞けるよう努めている。また、直接は言いにくい場合には、意見箱の活用や公共機関の利用もできることを伝えている。 (外部評価) 利用契約時、管理者は、ご家族に「遠慮なく意見を言ってくださいね」と説明をされている。事業所では、ご家族へ細やかに連絡をすることに努め、信頼関係を作っておられ、返信が必要な書類をお送りした際には、ご家族からお返事を早くいただけている。事業所では、今後、担当職員からご本人の日頃の様子と写真を入れた手紙を、毎月お送りすることを計画されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のスタッフ会を開き、職員同士の意見交換を行っている。職員の話を見聞や要望など、できる限り上層部へ届けるようにしている。	
			(外部評価) 「ご家族への連絡事項」を記すためのホワイトボードが、職員からの提案で新たに事務所内に設置されており、全職員が把握して、ご家族に確実に伝言を伝えられるようにされていた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) できる限り、現場の声を届けるようにしているが、代表者まで現場の細かい声が伝わっているかどうかは定かではなく、評価につながっていないと感じている職員もいる。昨年度、付帯施設各管理者連名で、付帯施設の管理体制を改善してほしいと要望書を提出したところ、今年それについての整備をするとの上層部からの回答があった。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 1年に定期的に勤務年数に応じた職員研修を行っている。外部研修においても費用の負担も行い、職員が研修に参加しやすいよう制度を充実させている。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) GH連絡協議会からの研修・フォーラムへの参加も研修制度を利用でき、職員から申請して作っている。付帯施設勉強会についても続けていることで、やっと認められていくように感じる。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) できるだけ入居前に1度お会いして、状況を把握するようにしている。また、入居時には表情や行動などから不安を読み取るよう常に見守りを行っている。本人に合わせて関わる時間を確保しながら、自分のペースを確保できるような援助を心がけている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面談の際ホームの様子を見ていただき、その方にどのような対応ができるかお話するよう努めている。また、紙面で説明を行い相談窓口をお伝えしている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人と家族の話を傾聴し、それぞれがどんな事に不安や疑問を感じているか見極めるようにしている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>昔ながらの歌や風習などを教えていただいている。また長年お菓子屋さんで努めていた方から羊かんの作り方を教えて頂いたりしながら共同生活を意識している。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>外出や行事の際、協力して頂いたり利用者の昔の生活歴を教えていただきケアに繋げている。また、日常生活の中で利用者の新たな一面を発見した時は、写真を送ったり報告をまめに行っている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>出来る限り時間を作り近隣の散歩やドライブを実施し、会いたい方と会える機会を作っている。また、馴染みの床屋を利用しておられる入居者も居る。女性入居者は、八日市に出掛けることも楽しみの1つになっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月、遠くに住まわれているお孫さんから写真入りのはがきが届き、職員は、利用者ご自分でお返事を書くことをサポートされている。又、ご家族に暑中見舞いを出され、ご家族がとても喜ばれた。食事時等には利用者同士で助け合う場面が見受けられ、居室には他の利用者が書いて下さった誕生日のお祝いの言葉が飾られていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) スタッフが声掛けを行い入居者同士が会話できるように働きかけたり、行事にはプレゼントとお祝いの言葉かけ等して頂きスムーズな交流を持っていただく様支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ホームを退居し、入院された場合は、お見舞いに伺っている。また、適宜ご家族とも連絡をとり、ご家族のお気持ちや、経過について何うようにしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の活動や作業等、無理強いせず気分の変動も伺いながら本人の意向に沿って声掛け、援助に努めている。また、思いを伝えられない入居者へは、不快感なく過ごして頂けるよう配慮している。 (外部評価) 職員の中には開設時からの職員も複数おられ、長年にわたり利用者の様子を見ておられ、職員は、日々の中で個々の思いの把握に努めておられる。センター方式の書式を用いてアセスメントをされていた。	「利用者個々のことを全職員で共有してケアに取り組みたい」と、管理者は、今後、利用者個々について「1年間の生活の変化が分かりやすいようなアセスメントシート」を作成していきたいと考えておられた。さらに、ご本人の思いや意向を把握できるようなアセスメントについても、工夫を重ねていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に生活歴、習慣、好みの物等、情報をスタッフ全員が共有出来る様文書でまとめている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居後しばらく様子を見ながら、全てのスタッフが状態を把握出来るよう介護記録に本人の言葉や態度を細かく記入する。その後その方の「出来ること」「得意なこと」を見極める努力をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			御家族がホームへ来所された時に、日頃の健康状態や活動を報告している。遠方に暮らし度々来られないご家族には、手紙や写真、電話で報告し、ご希望や心配な事をお聞きしてケアプランを作成している。	
			(外部評価)	
			個別の介護記録の冒頭に介護計画の内容を示して、職員で共有してケアを実践されている。介護計画は、3ヶ月毎に見直すようになっており、毎月担当職員が評価を行っておられる。ご家族へは、計画を送付してご意見をお聞きしている。	さらに、介護計画を作成する際に、ご家族や利用者にかかわる人達で話し合いながら作成するような取り組みもすすめてみてはどうだろうか。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個人記録にケアプランの内容を記入して、プランに沿った本人の行動やスタッフの対応を記録している。常に記録書式の見直しを行いケアに変化がある時は、その都度スタッフ全員で話し合い変更している。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			入居サービス、認知症に対する相談窓口、健康管理、通院や理髪店など外出時の付添や送迎などニーズに対応して援助している。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			市内の学生をホームに受け入れる機会を持ち交流したり、消防署の協力で防火訓練を実施している。市からもさわやか相談員さんに月に1回訪問してもらい、入居者さんの要望を聞いてもらうようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>契約時に希望のかかりつけ医を確認している。体調の 変化に伴い病院を変更する場合にもかかりつけ医に連 絡し、スムーズな連携が取れるよう支援している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>利用者、ご家族と話し合い、納得のいくかかりつけ医 に診てもらえるよう支援されている。退院後や体調が 優れないような時等は、特に病院や医療連携看護師等 と連携して支援されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	(自己評価)	
			<p>毎日、入居者の状態をファックスで医療連携看護師、 主治医へ報告している。毎週ホームへ来所してもらい 気になる事や分からないこと等あれば、その都度、対 処方法の指導を受けている。定期的訪問以外にも、入 居者さんの状態に合わせて、訪問してもらっている。</p>	
			(外部評価)	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価)	
			<p>入院時にサマリーや口頭で状態報告を行い、かかりつ け以外の病院に入院した場合には、担当NSを把握 し、いつでも連携を取りやすい様に努めた。</p>	
			(外部評価)	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>緊急時の対応はできているが、重度化・終末期につい ての話し合い、ご家族への説明は不十分である。今 回、法人内GHで、ターミナルケアに関わる書類や、 対応の流れについて統一を図り、医療連携看護師と共 に準備をしている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>ご家族やご本人とは重度化した時の支援や終末期のあ り方について話し合うような機会はあまりなく、ご本 人の状態を見ながら、ご家族や母体病院医師とも相談 して病院に入院となることが多い。</p>	<p>さらに、法人内で現在、ターミナルケアに関わる書類 や、対応の流れについて検討をされており、事業所で も体制作りをすすめていきたいと考えておられる。今 後、ご希望にも応じられるような事業所の体制作り や、ご本人やご家族に終末期のあり方の希望を聞くよ うな機会を作っていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署での救命救急講習や付帯施設勉強会で救急方を学んでいる。スタッフ全員の参加ではない為、月1回あるスタッフ会等で情報の共有を行っている。又、緊急時連絡マニュアルを掲示している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回避難訓練の実施。内1回は消防署と共に行い、講評を頂いている。(隣接の保育所と合同) 避難訓練を月1回実施できるよう検討中。又、年1回ある地域での防火訓練へ利用者と共に参加し、避難場所に施設前の敷地を提供している。 (外部評価) 敷地内の同法人が運営する託児所と合同で避難訓練を行われた。電話の側には事業所の場所を説明するマニュアルが掲示されており、連絡網等も整備して緊急時に備えておられる。今後は毎月避難訓練を行うことで、全職員が参加できるように取り組んでいきたいと話しておられた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレ誘導時には他者へ分らないよう声かけを行い、排泄介助では大きな声を出さず羞恥心を傷付けないように努めた。また自室へ入る際声かけを行い、食事では食べこぼしへさりげなく対応する等気をつけている。日常の会話でも個々の人格を尊重し、言葉かけに配慮している。 (外部評価) 管理者は、職員に「利用者への言葉遣いに気を付ける」よう話しておられる。調査訪問時、職員は、利用者のペースを大切に支援されており、利用者同士でコミュニケーションがむづかしいような場面に、さりげなく橋渡しをされている様子がうかがえた。日中、居室のポータブルトイレを使用しない時間には布を掛けておられ、又、ご本人が使用するパット等の介護用品も外部から見えないうち収納されていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定を促すよう、せかさずゆっくりとした対応に心掛け、時間をかけ傾聴している。意志表示が出来にくい方へは、選択できる声かけに気をつけ自己決定を行えるよう働きかけている。又、日常生活の中で嗜好品、行きたい場所等の聞きとりを行い献立や外出援助を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日内に気分変動もあるので日課や日常の作業等（食事の準備、洗濯物たたみ等）一人ひとりのペース・意思を大切にしながら援助を行っている。又、希望があれば散歩や買い物、入浴等優先し援助できるよう努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴、外出時には本人の着たい服を選んで頂けるよう援助している。又、希望を伺い出張理容や馴染みの床屋を利用している。日常では、起床時・入浴後に整髪や髭剃り等、自ら身だしなみを整えられるよう声かけ準備を行い補助に努めている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 希望を伺い行事などで献立に取り入れたり、嗜好調査を行った。食事の準備（下ごしらえ、盛り付け等）や片付け（下膳、食器洗い等）も無理のない程度に個々にあった作業を行って頂いている。又、ボードへメニュー書きをして頂き、掲示し食事への楽しみに繋がるよう努めている。おやつでは、一緒に菓子作りを行ったり、買い物に行き選んで頂いたりしている。	
			(外部評価) 男性の利用者の方がお米を研いでくださったり、野菜の皮むきをされる方もある。又、さつま汁等の郷土料理を教えてもらったり、味付けのアドバイスをもらったり、調理のことで分からないような時、職員は利用者にお聞きすることもある。ご自分の食器を下げて洗っておられる方やお皿拭きをされたり、テーブル拭きをされる方もある。日々献立を考える職員の負担を軽減する意味もあり、系列グループホーム合同で「1年間分の献立」をとりあえず決めておられ、行事時等には臨機応変に変更して、ご本人のお好きなもの等を探り入れておられる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立をチェックして頂き栄養評価・指導をうけている。毎日、食事量・水分量の記録を行い摂取量の把握に努めている。水分摂取では毎日、食事のほか朝・昼のおやつ時・就寝前に水分補給を行い、水分量の少ない方へは適宜摂取を進めて水分量の確保に気をつけている。提供時には温かい物・冷たい物等を伺い好みの物を提供できるよう努めている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨き・義歯洗浄を行って頂いている。本人の能力に合わせ声かけ・身守りや、仕上げの補助を行っている。義歯を使用されているほとんどの方に夜間は義歯洗浄剤を使用している。又、近隣に歯科があり希望に応じ受診・往診の支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 個々の排泄パターンの把握に努め、排泄の間隔を伺いながらトイレ誘導を行い、拒否がある場合には時間をあげ声かけを行っている。細目に排泄誘導を行う事で失敗やおむつの使用を減らせるよう努めている。又、トイレの使用が困難な方や、夜間歩行困難でトイレへ間に合わない方へはP-トイレを利用して頂き、トイレでの排泄を支援できるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 日中は、利用者個々の排泄のパターンに沿ってトイレへ声かけされている。夜間、トイレに明かりを付けていることで、ご自分でトイレに行かれる方もあるが、状態に応じて居室にポータブルトイレを置き、おむつ使用を減らす支援に取り組んでおられる。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 自然排便を促すよう、野菜・牛乳の摂取や細目な水分補給に心がけている。又、毎日ラジオ体操を行い作業等への参加も促し体を動かす支援に努めている。排便状態の把握に努め日々排便の有無・量をチェックしている。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 希望される入浴の時間帯を伺い支援している。入浴を拒否される方へは無理強いをせず、気分転換を図った後に入浴を進めている。</p> <p>(外部評価) 浴槽は、広い造りになっており、ゆったりと入れるようになっている。職員は、利用者の安全にも気を配り支援されている。入浴剤を入れたり、お風呂を嫌がられる方も、職員が脱衣所までお誘いすると、ご自分から「お風呂ですか」と言われながら入られて、入浴後は「気持ちよかった」と話されるようである。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 夜間の入眠状態を把握し、また日中の様子も観察しながら本人の意志を確認し休息の支援を行っている。又、夜間の安眠に繋がるよう散歩や作業への参加を促し日中の活動に心がけている。就寝前は個々の思うようゆったりと過ごして頂き、就寝時間を決めず眠たくなったら休んで頂けるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の薬情報を事務所で保管し、すぐ確認できるようにし把握に努めている。内服は個々にあわせ補助・介助を行い、確実に内服できたか最後まで確認を行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 作業では、調理・洗濯物たたみ・メニュー書き等を支援し日常の中に一人ひとりの楽しみや役割出番を作り出す取り組みをしている。又、買い物・散歩・日光浴・歌等、個々に好まれる楽しみ事を本人の希望を伺いながら支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常では希望にそって、散歩や買い物の支援に努めている。又、天気の良い日は日光浴を兼ねて外でおやつを食べたり、近隣への散歩など戸外への支援を行っている。年に数回行事にて全員で季節に合った場所や入居者の希望の所へ外出支援を行っている。一部の家族ではドライブや外食等、積極的に外出支援を行っている。 (外部評価) 外でおやつを食べたり、お散歩されている。ご自分が愛用されている腕時計の修理に、商店街の行きつけの時計店に行かれたり、食材の買い足しにスーパーに行かれることもある。又、受診帰りに通る道で必ず学生時代の頃のお話をしてくださる方もいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在はホームの立替金で対応している方が多い。数名の方がお金を所持されており、買い物や受診等、支払いの見守りを行い、本人より依頼があれば補助を行っている。「お金を持っていないと心細い」という気持ちを大切に、できるだけ管理はご本人にお任せしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望があれば補助を行い自由にコンタクトをとられており、リビングに電話子機を設置しゆっくりと会話できるよう工夫している。又、季節に合わせ年賀状や暑中見舞いハガキの作成を共に行い、手紙が届いた際には返信の援助を行っている。日々の写真を配付したり、できるだけ直筆で書いて頂けるよう援助を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>玄関、リビング等に季節の花を飾ったり、掲示板に月の行事を掲示している。また、温度計・湿度計を設置し気温・室温をチェックしながら、居心地良く過ごして頂けるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>共用空間には、地元の商店や八幡浜市に関係することが明記されたカレンダーやポスター等が掛けられており、又、月の行事が毛筆で大きく掲示されており、利用者の話題にもなっている。今日の食事の献立をホワイトボードに書いてくださる利用者が複数あり、交代で書いて下さっている。食卓台は低めのものも用意され、食事時の目の高さにも配慮されていた。他グループホームから送って来て下さるホーム便りも掲示されていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビング内にソファ3か所と食卓を設置し、思い思いに座られくつろぐことができるようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>使い慣れたタンスなどの家具を使用されたり、家族の写真飾っていただき本人の好みの居室になるように配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室はそれぞれに個性があり、歴史の本を読まれる方の枕もとには電気スタンドが付けられるようになっていたり、ご本人が日々の感想を書くメモ帳を下げられている方もあった。大相撲を自室のテレビで楽しむ方や冷蔵庫を持って来られている方もある。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>トイレの場所が分かるようにトイレ戸に張り紙を貼ったり、椅子の足に滑り材を貼ったりし、「出来ること」「わかること」を活かせるように工夫している。</p>	